令和８年度　第２回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会　会議録

開催日時	令和８年１０月２日（金）　午前 10 時から 12 時まで
開催場所	あま市役所　２階Ｆ会議室
出席委員	杉藤一夫、早川安広、中島純子、横山亜矢子、谷口庄一、木村考志、小坂井智弘、大家浩靖（代理出席　髙田真弥)、横銭淳一、下田英明（代理出席　真野崇徳)、伊藤克仁
欠席委員	武舎妙子、川原史子、服部哲也、小林優太
事務局	調整監 飯田達也、企画政策課課長 水野恭伸、企画政策課主幹 八神丘侑、企画政策課主幹 説田将光、企画政策課課長補佐 近藤尚和、企画政策課主任 伊藤勇人
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	０人
次第	１　開会 ２　議題 （１）あま市人口ビジョン案（令和８年度改訂版）の修正について （２）第３期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について ３　その他 ４　閉会
配布資料	資料１　あま市人口ビジョン案（令和８年度改訂版） 資料２　第２次あま市総合計画後期基本計画素案（第３期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案)） 参考１　令和８年度第１回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員における意見とその対応について 参考２　あま市及び近隣市における年齢階級別純移動数の状況 参考３　第２期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略　進捗確認資料

	１　開会
事務局	本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより令和８年度第２回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を開会させていただきます。私は、本日の進行を務めます企画政策課長の水野と申します。よろしくお願いいたします。 なお、本委員会は公開で開催いたします。市公式ウェブサイトに会議録を掲載することとなっておりますので、会議録作成にあたり録音させていただくことをご了承いただきたいと思います。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるか、マナーモードにしていただくようお願いいたします。 本日の会議は議事録システムを使用いたしますので、会議中のご発言の際は、お手元のマイクシステムをオンにしていただいてからご発言をお願いいたします。

	本日の終了時刻は 11 時 30 分頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。 また本日は、川原委員、武舎委員、服部委員より欠席の連絡をいただいております。 続きまして、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は事前にお渡ししておりますが、お持ちでない方はご連絡いただければと思いますが、よろしいでしょうか。 それでは続きまして、開会にあたり谷口会長からご挨拶をいただきたいと思います。お願いいたします。
会長	おはようございます。お忙しいところありがとうございます。 ９月８日に線状降水帯による豪雨がありましたが、皆様、大丈夫だったでしょうか。うちの大学も通常に大学があり、学生が大学から出られなくなるという事態に陥ってしまいました。阪神淡路の時も、東日本大震災も、想定外の事態が起きたという話がありました。2000 年の東海豪雨もあって、想定外がそんなに続くと想定内に入れないと駄目なのではないか。今回は交通は麻痺しましたが、名古屋市内でも死者もなく 26 年前の東海豪雨から７倍くらい貯水量を増やして、その対策が効いたということです。下呂市に私が支援している高校があるのですが、下呂も河川が溢れたと聞いて、大丈夫だったか連絡をしたときに、やはり一部被害はあったということでした。しかし、名古屋のニュースを見て「驚いた。やはり 26 年前の豪雨の経験が生きているのですね」と言われました。 「まち・ひと・しごと創生」は、少し長期で見る計画です。総合計画は 10 年で５年ごとの見直しですが、「まち・ひと・しごと」は 30 年、40 年先も見て考えなくてはいけない計画です。今日の議題に出ると思いますが、今後、あま市の人口はどうなるかというところをベースに、場合によっては、インフラそのものをただ作ればいいというのではなくて、当然、維持管理もしなければいけない。では、そのコストはどこから出てくるのだというリアルな話も出てきます。 30 年から 40 年後ということは、今、生まれた子が 30 歳、40 歳になるのですから、どこかで準備をするかしないか、そういった心づもりを「まち・ひと・しごと創生」の中で、意見として記録していただければと考えていました。 本日も限られた時間の中ですが、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
	２　議題 （１）あま市人口ビジョン案（令和８年度改訂版）の修正について
事務局	ありがとうございました。 続きまして次第の２、議題に入りたいと思います。本委員会は、会長が議長を務めることとなっておりますので、ここからの議事進行は会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長	よろしくお願いいたします。

	それでは、議題（１）あま市人口ビジョン案の修正について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	（担当者より資料の説明）
会長	ありがとうございます。説明がありました内容についてご質問、ご意見はございますでしょうか。
委員	１ページ目の表現は、最初は国の関係だけの状況で課題になりましたが、あま市の状況等を示していて、しっかり文章を載せていただきました。 アンダーラインの最後の後段で「今後の動向を注視しながら、長期的な視点で人口減少社会に対応した取り組みを進めていくことが必要となっています」という表現があるのですが、一段下に「人口減少に伴う課題は、一朝一夕に解決できるものではなく、中長期的に取り組んでいく必要があります」という２つの表現があります。この長期的な視点と、中長期的な取り組みという関係があるのですが、あえて言うなら、上段の下線の部分の最終行「今後の動向を注視しながら」という段落は課題だけを示して、あとは後段に任せて、必要があるということをうたえばいいのかと思いました。 ２ページ目の表に令和２年から令和７年までのグラフがあります。３ページ目の世帯に関しては、平成７年から令和７年の表になっており、平成２年が抜けていて、本編の総合計画後期基本計画の方の 19 ページでは、平成２年から令和７年となっています。世帯のほうだけ令和２年がグラフとして入っていないのはバランスがどうなのかと思いました。 14、15 ページも、しっかり課題も表現していただいて、分かりやすくなったと思います。文脈が少し長いので、どこまで表現するかは別として、前より良くなった感じは受けました。
事務局	１ページ目の下線部分の「今後の動向を注視しながら」について、後段と重複する部分ですので、削除させていただきたいと思います。
委員	参考２であま市と愛西市と津島市と比較をしていただいて、とてもよかったと思うのですが、あま市にＩターン、Ｕターンされるほうが多いのは、どのような理由なのか分析はされていますか。理由があれば、そこがあま市の強みかなと思いますので、もう少し前面に出されてもいいのではないかと思っています。
事務局	ありがとうございます。こちらについては、後ほどお話ししようかと思っているのですが、資料２の 120 ページをご覧ください。こちらはＳＷＯＴ分析ということで、左の欄の赤い部分にあま市の「強み」があります。 こちらは先ほどの数値として表れている部分との関連性があるわけではないのですが、強みとして考えられる部分として、「名古屋市に近い優れた立地や交通性の利便性」や、「都市的利便性と田園環境が共存する暮らしやすさ」など、子育て世代が流入しやすい環境が整っているところがあま市の強みで、転入していただける要因になっていると考えております。

委員	今の参考２の表ですが、あま市が 20 代、30 代でＵターンやＩターンで戻ってきたあと、35 歳から 39 歳、40 歳から 45 歳以降のところが０より下になっていて、近隣の津島、愛西はぎりぎり０より上になっているのですが、戻ってきた世代のあとからはまた転出が多いのですか。
事務局	こちらについては、数値の分析ができていません。確かに数値上、示されるものとしては、どちらかというと下がっている形で、それ以降の世代だと流出が見られる形になっています。
委員	その世代の転出の理由も分かると、分析しやすいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。
委員	ＳＷＯＴ分析のところでご説明いただきましたが、「強み」の中で言うと、「都市的利便性と田園環境が共存する暮らしやすさ」で、田園環境が共存することが人口流入につながっているかどうかは、少し抽象的かなと思っています。 ＳＷＯＴの中で下から３つの「妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援環境」や、「市民病院を含む地域医療基盤」、「市民・地域・ＮＰＯ・行政等による協働のまちづくり」、これはほかの自治体よりも進んでいるという理解でいいですか。
事務局	特に下から２つ目の「市民病院を含む地域医療の基盤整備」につきましては、平成 30 年に市民病院の建て替えや、その後の指定管理、地域医療振興協会への委託という形で、市民病院の地域医療としての力というのは確実に上がっているところはあります。また、病児保育室や子育て期の切れ目ない支援についても、保健センターからの各保健師の訪問といった形で手厚く行っている認識はあります。
会長	この人口ビジョンですが、21 ページを見ていただけますか。 人口推計の比較グラフで、あま市は８万９千から９万を目指すということをずっと言ってきましたが、社人研のあま市の推計が 2060 年に６万 6,536 人で、あま市の推計が７万７千で１万人ぐらいの開きがあります。 少しでも減らさないという気持ちは分かるのですが、長期のビジョンを考える場合は６万くらいまで下がっても、あま市の市民の人たちの生命が守られるようなビジョンを作るという一つの方向性を出しておいたほうがいいのかなと思っています。人口というのは、硬く言うと都市計画、軟らかく言うとまちづくり計画の根幹の部分ですので、９万人くらいいた人口が６万人くらいになるということは３分の２の人口になってしまうわけですから、そのインパクトはかなり大きいという認識は持ったほうがいいと思います。 14、15 ページに「２　子育て支援・教育ニーズの多様化」について、ここの子どもと言うのは、小中高、または幼稚園のイメージだとは思うのですが、これから本格的な超高齢社会ですから、若い世代だけではなくて、社会人になっても学び直しができる、リスキリングまで入れてもいいのではないか。分ける必要もないと思います。教育に関しては、年齢に関係なく学びたい人は学べる環境を支援する。これから子どもが減ってくるので、いろいろな展開が考えられると思うので

	す。大学のほうも社会人を受け入れる準備を積極的に始めているので、それが中学校や高校の教室などを使ってということもあり得るとは思います。教育のところも少し枠を広げてはどうかと思います。 「１　高齢化の進展による医療・介護ニーズの高まり」とありますが、もう高齢化は進展しています。数字的には日本の場合は超高齢社会に既に入っているので、これから高齢化するような印象ではなくて、もっとレベルの高い高齢社会になることを認識したほうがいいかなと思います。 「４　生活利便性の確保」について、あま市巡回バスがサービス展開していることを言いたいのは分かるのですが、これが何年続くかは分かりません。一方で、自動車業界は自動運転やオンデマンドなどの様々な新しい技術開発をおこなっています。トヨタも小型の車両が必要なところに行って、主要道路では全部連結してというシステムの実証実験段階に入っているので、そういった最先端の通信、または運行技術を取り入れて、それを公共交通として再編するというような言い方のほうが前向きかなと思います。 「６　地域コミュニティへの影響」に関しては書き方の問題なのですが、この書き方だと市民や地元企業に、責任を押し付けているように読めてしまいます。これをしないといけないように取られてしまうと、若い人たちはあま市に住もうかという気にならないと感じます。だから、そういったコミュニティが非常に充実して、楽しそうに生活しているところを見せることが重要ではないかなと思います。大学でも高校でもそうですが、高校時代や大学のキャンパスライフが、楽しそうにしているのをいかに受験生に見せるかということが大事です。 あま市に住んでいる人たちが、生き生きして楽しそうにしているかどうか若い人たちの目に映れば、あま市を選ぼうかということに繋がりやすいのではないかと思います。 率直に言うと将来的に、あま、津島、愛西はほぼ一体化して考えたほうがいいのかもしれないと思います。今はあまと津島がどうこうというのはあったとしても、三河、西三河、知多というところに持っていかれるのではなくて、あま津島地域に人を呼び込む必要があると思います。あま津島地域におけるあま市はどういう位置付けにあるのか、津島はどういう位置付けにあるのか、愛西はどういう位置付けにあるのかという議論を横の連携の議論を深めていきながらということがどこかに入っているといいかなという感想です。 他にご質問等がございませんか。 では、次の議題に移りたいと思います。議題（２）第３期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について、事務局より説明をお願いいたします。
	（２）第３期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
事務局	（担当者より資料の説明）
会長	確認ですが、ＫＰＩの設定で現状値と目標値が変わらないのは現状維持を目指すということですか。

事務局	そうです。
会長	逆に 137 ページの「あま健康マイレージ応募者数」が 1,451 人から 1,400 人、「あま体操普及啓発事業の実施回数」が 21 回から 20 回、「スポーツ教室参加人数」が 260 人から 210 人になっているのは、減らしているのですか。
事務局	こちらは、今後の事業の展開の状況等との整合性と聞いています。例えば、「健康マイレージの応募者数」については、令和７年度までは学生と一般の参加者数を見込んでいましたが、８年度から一般のみの参加とするというところで、その分を減らしているような目標となっています。また「スポーツ教室参加人数」についても、事業の中で一部終了する事業があり、その分を減らした見込みとなっています。
会長	目標値が減るというのは、利用が制限されるのかというふうに見えたので、そのあたりを分かりやすく説明していただきたいと思います。 皆様からご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
委員	素案が令和８年 10 月と書いてあるのですが、これは今月に市のホームページ等で公表されるものですか。 説明いただいた中で、主な事業がそれぞれ載っているのですが、あま市も財政厳しい折、予算が絡むものもあると思いますので、現時点で可能なものが載っていて、今後５年間、計画に記載していくことですか。 ＫＰＩについて、前期の分に引き続いて後期もこれでいかないといけないのですか。変更は可能ですか。
事務局	１点目の令和８年 10 月の記載についてですが、本年はこの委員会の実施を４回予定しており、素案の段階の案をお示ししております。今回は 10 月のこの検討段階の内容で、ホームページ等で公表していく形となりますので、10 月の表記となっております。 ２つ目の主な事業の掲載内容と予算との関連性についてのご質問ですが、こちらは市の内部で先月、各担当課と調整して、現段階から５年間は実施が見込まれるものについて挙げていると認識しています。予算編成の段階で無くなる恐れがあるものについては極力挙げないような形になっていると認識していますが、また関係部署も含め今後、確認作業が必要になると考えています。 ３つ目のＫＰＩの変更についても、同様に各担当課と調整した内容となっていて、先ほど会長からご指摘もいただいたように、予算の都合で減少が見込まれるものについて減るような形になっていて、見た目が少し分かりづらいところもありますので、少し再検討したいと考えています。
委員	担当課から聞いてないところもあったので、大変失礼いたしました。担当課とも確認して、後日お話ししたいと思います。 ＫＰＩ指標のところで自分が気になったのは、133 ページの教育のところで、「食物アレルギー対応食の提供割合」があるのですが、食育活動を推進し、児童・生徒の心身の成長を図る上での指標が、食物アレルギー対応食の提供割合となって

	います。全児童生徒の 80%、90%に当てはまるのであれば、これが指標かなと思うのですが、今、6,800 から 6,900 くらいの児童生徒数中、10%くらいいるかどうかの児童生徒のための割合が、ここの指標に乗ってくるというのは、果たしてそれでいいのかと少し心配になりました。学校教育課もしくは給食センターが、これでお願いしますと言うのであれば、自分は分かりましたというのはありますし、前期との関係でやはり今期についてはこれでいくというのであれば、それは了解しましたと言いますが、次回以降、これでないといけないというのでなければ、少し検討していただきたいと思いました。
事務局	こちらについては、全体の中で 10%のアレルギー対応をされている方のうち、60%弱の方にアレルギー対応の食事が提供できているという指標です。担当課や給食センターからは、今後、対応できる食種を増加させていきたいと伺っています。例えば、エビやカニが、今後、やっていく見込みがあるので、70%にしたと伺っています。確かにおっしゃるとおり、これでないといけないということはなくて、全体の中で一部の方に対する措置についての目標値になりますので、学校教育課のほうで少し調整して、 さらにふさわしい指標があれば、差し替えていただくことも可能かと考えております。
委員	10%もいない子どもたちが対象の指標ではなくて、例えば、学校給食は楽しいですか、友達とおいしく食べられていますかということだと、全児童・生徒対象になります。そういう全児童対象にした指標のほうが、この基本的方向に合致するかと思いましたので、意見を言わせていただきました。後ほど事務局と相談をさせてもらいます。今期はこの案のままでというのであれば了解いたしました。
委員	118 ページ、第２章の「人口ビジョン」の「本市が目指す将来人口」の中に、「本市は、今後、土地区画整理事業や地区計画制度の活用、都市計画税の活用による基盤整備の推進、リニア中央新幹線の開業～」とあります。この中で気になったのは、土地区画整理事業の活用についてで、当然、区画整理事業をすれば、農地を住宅地に改良して人口流入を図り、将来的に子どもの数を増やして、市民税やいろいろな税金も徴収が増加する期待をしたいのは当然分かりますが、この背景に現状まだ解決してない大きな問題があります。蜂須賀の土地改良があって、これが現状、仮換地の状態のままで推移しています。これがブレーキになって、ほかの地区で区画整理事業をしたいという要望があっても、県のほうでそれが解決できないと前に進めませんということを聞いたことがあります。 そこを踏まえて理解した上で、土地改良事業整備と書いてありますので、そのあたりのところは市民がこの文章だけを読むと、あま市は土地改良事業をおこなって、土地開発して住宅地も増えてとても発展する、夢と希望に満ちあふれるまちだと思うと思います。 ここの議題で考える問題ではないかもしれませんが、これを優先的に解決してその整備関係も含めて、もう少し上手にオブラートに包むような表現が取れただろうと思います。私も木田の郷南区画整理組合の総代を務めました。５年計画でし

	たが、実際は完了までに７年掛かって完成しました。完成して将来的にはおそらく新規で 200 世帯くらいの住宅が建つだろうということで、だいぶ住宅が建っていますので、そのあたりのまちは非常に活性化につながっています。田の面積や耕作面積が減りますが、人口を増やしてまちを活性化することは当然おこなっていかなければいけません。ただ、この区画整理事業といううたい文句を鵜呑みにして、あま市はどんどんやれる状態だなと思わせてもいけないので、その辺はもう少し文章的に一工夫していただく必要があるのではないかと思います。
事務局	私は企画政策課に来てまだ日が浅いのですが、蜂須賀の話は別の部署で対応していると思いますので、そちらで進めていただくことになると考えています。そこが終わっていないので、次ができないのではないかというお話もありましたが、随分昔からそのような状態であった中でも、先ほど言われたように木田の郷南の区画整理はできましたので、そこは必ずしもリンクしているものではないと考えています。そこは担当課のほうで、今後やっていけるように進めていただきたいと考えています。 計画上としては人口を増やす一番の得策としては、土地区画整理は大きな事業であると考えていますので、この中では記載はさせていただきたいと考えています。今後の運用については、担当のほうで都市計画課と確認させていただきたいと思いますので、それでご了承いただきたいと思います。
委員	そういうことを理解した上で、こういう表現になったと捉えさせていただきます。ほかにも区画整理をしたいというところはあるのですが、県がブレーキをかけています。私が県の担当課だったら、一つも解決できていないのに何を言っているのかという話になります。これは企画政策課の問題ではありませんが、その辺も含めた上で、上手に表現できる方法を考えていただきたいと思っています。
委員	この「まち・ひと・しごと」の会議と並行して、総合計画の策定と都市計画マスタープランの策定がされているので、頭に来るのは総合計画だという理解をしました。 来年から都市計画税を徴収するということで、その税収が活用できる事業として、市街化の区画整理を行い、人口を増やすのだと思います。本来は市街化区域の農地は農業を振興するというべきものではないと私は考えます。将来的に、今の８万８千人くらいの人口で、将来人口が２万人くらい減っていくとなると、税収減になります。今の市が抱えているインフラをどう運営していけるのかと考えると、やはり人口減少を少しでも減らしたい、生産人口を増やしたいというのが必要だと思います。先ほど会長も言われましたが、10 年先でなくもっと先の何十年も先のことを見るのであれば、減少ラインを少しでも緩やかに持っていくのが、この計画の目的でもあると思います。ＫＰＩやいろいろな施策をおこなう上で、行政改革による財源確保は絶対必要になってくると思います。そういうことを含めて、ここで総合計画や都市マスのほうでしっかり行政側として検討していただければと思っています。

	118 ページの人口推計の中で、出生率を 1.6、1.7、1.8、2.1 に持っていきますと書いてあることについて、現状の福祉施策、ファミリーサポートセンターも頑張って子育てしやすいまちになっているかと思いますが、ここ数年の現状維持の福祉政策で、これが保たれるのか、上昇傾向になるかということを問われた場合に、この数値を持ってきますよと言い切れるのか心配です。いろいろな子育て支援の中で、起爆になる事業をおこなうことは可能なのでしょうか。
事務局	ご指摘のとおりで、出生率の上昇が最終的に 2.1 というのはかなり希望的観測だということは認識しています。一方で、これまでの子育ての施策において、他市の状況とも比較して、一定の流入人口が子育て世代であります。本市の子育て施策が他市と劣るかというところもなく、保育園の待機児童の問題でもファミリーサポートセンターの問題でもしかりですが、各施策で頑張っていると考えています。ここで目玉の施策という形で新しいものは、今回のＫＰＩや重点目標の中では掲げられてはいないのですが、そういうところも含めて、こういう数値を目指したいというニュアンスです。
委員	目標を達成するために作った数値だと、いろいろな形で言われる場合がありますが、それに対してどう答えていくのかというのが１点です。 資料２の最初の数値で、流入する人口の世代や減っていく世代が近隣市町と少し違っています。以前、お話ししたのですが、旧甚目寺町が子ども医療を先行したときに一気に人が増えた時期がありました。それが今はどこでも子ども医療の補助があります。出ていく世代と入ってくる世代があるので、そこをしっかりと分析しておくことが必要だと思います。こういう数字でも先ほど言った数字でも、何とか目標達成ができるということを文章にしておいたほうがいいと思います。 あとは、45 歳以降はマイナスになっているので、こういう人たちは子育て終わったから出ていくということなのでしょうか。この部分を拾い上げて、０以上にする施策をしっかりと考えられたほうがいいのかなと思います。
委員	毎回すごい資料だと思っています。これを作っていただくのにいろいろ検討していただいて、本当にあま市はすごいなというのを勉強させていただいています。 冒頭で議長がおっしゃっていたのですが、今、災害について関心が高い方が多いと思います。そのことについてあま市はこういうことをやっていますということを、どこかでもう少しうたってあると、市民としては、やってくれているんだなということが分かるかと思いました。 あと、外国人を見かけることが多くなってきており、いいこともあるでしょうし、トラブルもあると思うのですが、外国人と協働という言葉が単語としては入っているので、具体的にどう取り組んでいるのかという項目もあってもいいのではないかと思いました。
会長	ありがとうございました。災害については、私はちゃんと見ていない部分があるかもしれませんが、あま市内で、どこでどんな状態で、それがどれくらい復旧したかというのを早めに市民に知らせた方がいいのかなと思っております。

委員	私が思っていた疑問が解消されたような、されてないようなところがあります。123 ページの出生数の目標値が令和７年度より増加と書いてあるのですが、これはきちんとした数字なのかと思いました。出生率は上がっていくということになっていても、その 1.6 を保っていったら、５年後も令和７年度より増加している見込みが本当にあるのかということを、きちんと検証してこの目標値を出されているのでしょうか。
事務局	出生数については、女性の人口が減っている状況ですので、出生率が現状維持のままですと、やはり下がってくる形になってしまいます。504 という数字を維持するためには、出生率が上がっていかなくてはならないというのは、今後の課題なのかなと考えております。
会長	この辺り、本当は現実を見て精査すべきだと思います。多分、ほかと横並びでやっているのでしょう。
事務局	こちらに関しては事務局内で検討をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。
委員	126 ページの「人材としごとをつくり安心して働けるまちをつくる」というところについていろいろ言われているように人材不足、人手不足で事業を継ぐ人がいないので、事業としては儲かっていても廃業せざるを得ないというところが実際多くあります。あとは高齢のために事業を閉めるために、会員数も減っていく数の方が多い状態にあるので、商工会の役職員も頑張って新しい会員を勧誘して現状維持を図っています。 この基本的方向の最初にある「設備投資促進に向けた取り組みを推進します」ですが、コロナ以降疲弊した企業が多いので、設備投資したくてもなかなか難しいです。あと事業転換といっても、資本をたくさん持っているところはいいのですが、アイデアはあっても実現できないところもたくさんあります。商工会も県連や全国連のほうで、M&Ａやマッチングなどいろいろしています。市に私たちがお願いしたい案件はたくさんありますので、またまとめてお願いにあがらせていただきます。 今日も午後から創業塾の卒塾式があるのですが、新しい若い方たちがあま市で創業していただければ活力になると思います。人口が増えるのもそうなのですが、地元の商工業者が元気でないと市を盛り上げるのも難しいと思いますので、いろいろご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
委員	116 ページ、基本目標３の数値目標の「出生数」の「進捗状況」が令和７年度 504 人に対して、令和８年度の目標値は令和元年度より増加ということですので、約 700 人となり、令和７年度より 200 人のプラスと考えてよろしいですか。また 123 ページだと、令和 13 年度の目標は令和７年度より増加となっているので、500 人くらいになってしまい、少し疑問に思いました。

	118 ページの出生数が 1.6 から 2.1 に上昇するというところが気になります。リニアの新幹線が開業することが出生数の増加につながるということが、しっくりこないと客観的には感じています。
事務局	最初にご指摘いただいた、116 ページの令和８年度の目標値の部分ですが、第２期の計画で、令和元年度の時点では 696 人という出生があった部分から、８年度までに増加を目指したいといった形であったのですが、結果として大幅に下がっている状況です。 後半部分の 2.1 を目指すというところと、増加するというところの整合性については、こちらの方で再検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
委員	せっかくこういう場に参加させていただいているので、高校の現状と感想をお伝えしたいと思います。特にあま市の人口減少に関する分析について、非常に興味深く見させていただきました。 119 ページに「人口減少に対する『緩和」と『適応」の視点」がありますが、まさに今、県立高校でも求められています。五条高校は 55 年の歴史を歩んできた中で、１学年には９クラス、27 クラスで運営していた時代がかなり長くありました。その後、平成の中期に入ってからは１学年８クラス、24 クラスの学級で運営していました。今年に関しては 21 クラスです。令和６年度に１クラス減、令和７年度に１クラス減で、２年続けてクラス減となっており、学校規模としては１学年６クラス規模になっています。今年の募集定員がどうなるかは県から決められることなので、私達は何にもできないのですが、あま市、津島市、稲沢市あたりを、尾西地区と県立高校ではくくるのですが、尾西地区の生徒数の減少というのは全県的に見てもかなり深刻な状態です。 人口減少、生徒数の減少にどうやって適応していくか、どうやって歯止めをかけるかということで、学校の魅力化ということがすごく求められています。本校は半分はあま市ですが、半分清須市です。あま市、清須市から来る生徒も当然いますが、半数以上が名古屋市から来てくれている学校です。 地域としてはほかから入ってきてくれる子たちもいるので、本校の魅力化がうまくいき、たくさんの生徒が来てくれるようになれば、あま市と清須市にも非常にいい影響が出るのだろうなと感じています。本校は普通科なので、昔ながらの進学指導を継続していくことが一つの魅力でもあるのですが、それだけでは足りない時代が来ていると思っています。学校の中でも学校をどうやって魅力化して、それを発信して生徒に来てもらえるかということを考えている状況です。また、地域との連携もたくさんさせていただいているので、今後もそれを進めながら学校の魅力化を進めていきたいと感じています。
委員	私のほうから感想と本校として何かできるのかというのを考えていたのですが、本校は令和７年度から新しい普通科という形で地域探究科が誕生しました。地域

	の方々に支えられながら地域の課題をいろいろ考えて解決方策を見出しながら、探究力を身につけるといった学科になっています。 いろいろなところで地域の方々にお世話になっていますので、そういったことを通じて探求力を身に付けるということがあります。やはりこの地域あるいは自分たちの住んでいる地域をどうしたらもっと魅力のあるところに変えていくことができるのだろうか、そういうことを考えるきっかけにもなるような取り組みをおこなっています。昨日は１年生が観光探究ということで、あま市の観光についてどうやって盛り上げていくか、フィールドワークをおこないました。来週もまたフィールドワークで実際に見ていくということをおこないます。今日は２年生がインクルーシブスポーツとして小学校に伺って、誰でも容易にできるスポーツを一緒にするということをしています。これ実は目的はそれだけではなくて、２年生の１年間の集大成として、来年の３月に地域を盛り上げるためのイベントを自分たちで企画しておこなうことも考えています。そういうところで、いろいろな形で地域と関わり合いを持ちながら、どうすれば地域の活性化につながるか、そういうことを見出せるという地域探究科になります。もちろん高校生が考えることですので、それが直結するとは思いませんが、そうして考えていったものをさらに深めていき、例えば大学に進学し将来学んだことを生かしてまた地域に還元するようなことを目指している学科ですので、いろいろなところで活かされればと思います。まず一つそういうところでアピールしたいと思います。 もう一つ、本年度がスタートですが、連携型の中高一貫教育という形で第１期生が入ってきました。 これはあま市の５つの中学校と大治中学校の６つの中学校と本校が連携をして、連携授業を通じて美和高校ではこういうことが学べるんだと生徒を本校に招き入れて中高一貫という形でおこなっています。６年間かけて地元に貢献できる人材を育てるというお題目でスタートしております。無理やりスタートしたようなところもあって、見切り発車でやっており、できるところからやっていく形にはなりますが、理念としては地元に貢献できる人材を育成しようという形でスタートしていきたいと思っています。 こちらもこれからいろいろな形で繋がるかと思いますが、美和高校としてはそういう形で地元を盛り上げていきたいと思っています。またいろいろとお世話になりますが、よろしくお願いいたします。
委員	計画の策定の後、ＰＤＣＡを回していくことが多分、肝になってくると思うのですが、ＰＤＣＡについては私たちの会社も、かなり徹底的にやっているほうです。私たちが普段していることを参考までに感想として申し上げると、すべての意見を全部聞いているとぐちゃぐちゃになる可能性もありますので、やりやすいものではなくて、やるべきだと思われることを採用していただければと思っています。

	われわれが普段やっているときに、最初の目標の設定やＫＰＩの設定に魂がこもってないとか、根拠がないとか、そういったことになると、多分、ＰＤＣＡそのものが瓦解してしまうケースがあります。ですので、この会議で皆さんのご意見を聞いてくださっているのは、非常に大事な機会なのだろうと私は感じています。設定のほうが曖昧であると、あとでＤＯをしてチェックしたときに、これがそもそもなんだったのかという振り返りがうまくいかなくなるので、やはりここはとても大事なんだろうと思っています。 今回、120 ページのところでＳＷＯＴ分析をしていただきました。それを策定する前に「強み」、「弱み」を踏まえて策定することはとてもいいことだと思いました。ＳＷＯＴ分析のところで、先ほど少し意見を申し上げましたが、この「機会」、「脅威」、「強み」、「弱み」の中に、あま市独自のもの、あま市ならではのものがどれだけ挿入されたのかなというところは非常に気になっています。「脅威」や、「機会」、「強み」、「弱み」のところは、これはもしかしたら愛知県すべての自治体共通なのではないのかなと思っています。あま市独自のものをどれだけ考えて組み込めるかで、見えてくる世界が全然違ってくるのではないのかなと思っています。その上でＰＤＣＡに回していくときに、やはり我々の会社でもうまくいかないことのほうが多いです。あまりうまくできないことを前提に考えると、やはり設定、そしてチェックが大事なのだろうと思います。 少し気になっているところを２つ申し上げると、例えば 126 ページのところで、左下にＫＰＩがたくさん並んでいますが、一番上の企業の立地件数や、４つ目の創業者数、これはある施策をやった結果の数値かなと思っていて、ほかの項目については自治体がおこなう、自ら手を加えるプロセスのところなのかなと思っています。１つ目、４つ目のところについては、これは結果の数字なので、そのために何をやったかのほうが大事なのかなと思っています。次のページの「主な事業」のところで、例えば２つ目の創業促進支援事業で言うと、「安心して事業継続ができるよう整備を図ります」というのは、具体的にいつまでに何をやるのか、このあたりが具体性と時期が非常に大事になってくるのだろうなと思っています。令和 13 年までに 110 件の創業者を作るのであれば、令和 12 年になってからでは遅いので、令和８年、９年くらいに何をいつまでにするとどうなるのかということが都度検証できないのではないのかなと思います。 あとはこの中で、左下のＫＰＩところで言うと、５番目の「市公式ウェブサイトによる年間周知回数」が１回ということですが、年に１回ウェブサイトで周知をしますということが、本当にＫＰＩとして必要なのかなという気はしています。各担当課の事情や思いもあると思うのですが、やはり人も時間もお金もリソースは限られていますので、よりその強い思いとか、魂がこもったところに、人、時間、お金のリソースを割いてもらいたいと思います。その上で、ＰＤＣＡをしっかりしていただくと、よりいいのかなと思っています。
会長	118 ページのリニア中央新幹線の開業に関するインパクトは、きちんと測定して

	いないのですね。品川・名古屋が 40 分で、ここから大阪までが 20 分です。つまり 20 分あれば大阪まで行けるので、名古屋駅を降りて 20 分以内でないと近くないってことになります。先ほどから 15 分とかありましたが、これは名古屋駅からであり、栄からだと 30 分近くかかります。また電車がそんなにたくさんあるわけでもないので、時間と体感距離というのはそんなに合っていません。 例えば東海市の太田川駅とか、少し遠いですが知立とか、時間はあまり変わらないですよね。特急が止まる分、向こうのほうが少しアドバンテージがあります。これで 15 分を自慢するのはなかなか難しいかなと思います。リニアは、そういう意味で今のままではそんなに恩恵を受けることはないので、もし恩恵を受けたいと思うのなら、もっと積極的にいろいろな施策を考えるべきです。大阪までの開通までもタイムラグがありますから、その間に何ができるかだと思います。大阪まで開通してしまうと少し厳しいかなと思います。 中部空港が開港したときにも、いろいろありましたけど、常滑線沿線でさえほぼ恩恵を受けていません。常滑市自体もあんまり恩恵受けていませんので、リニアはあまり夢を見ないほうがいいのかなと思います。 外国人人口ですが、これも非常にその国の経済に左右されていて、元々中国、韓国が多かったのですが、今はベトナムが一時期に非常に増えています。ベトナムも人口１億超えて景気が非常にいいので、ベトナム人はもう自分の国で働いたほうが給料がいいので、あんまり日本に来なくなってきています。今はネパールとミャンマーが多いです。ミャンマーは政治的に不安定なので、しばらくは日本に来る人も多いでしょうが、それぞれの国が安定して、経済的に上向いたときには、日本は２番目、３番目の国になってしまいます。お金を持っている人は、アメリカやイギリス、フランスに行くそうです。そうでない人は韓国とかオーストラリアとかそういったところに行くそうです。やはり日本のプライオリティが下がっているということです。日本のアニメや文化、歴史に興味がある人は来るのですが、そんなに期待せずに、その時その時で国が違うので、ここもしっかり分析はしておく必要はあると思います。 あと 119 ページ、人口減少の緩和で、「若い世代が将来に希望を持ち、結婚・出産・子育て～」とありますが、うちの大学だけでなく、ほかの大学にも教えに行って話をするのですが、女子学生の結婚をしたいというプライオリティが非常に下がっています。就職のときも結婚するから就職しませんという学生はまずいません。ほぼ全員が就職をします。そうすると、自分の収入が自由に使えるということが分かった途端、一気に結婚の意味を測り始めます。だんだん親の世代も若くなるから、結婚だけが全てじゃないよという家庭で育つほどそのような意識を持ちます。先日、国の調査でも 30%以上は結婚に興味がないと言っています。現実として半分くらいは興味がないという状況です。そこで出産の話しをしても、母数がありません。何かしらの要因で結婚してしまったっていう人たちは、１ＬＤＫや２ＬＤＫに住んでいるので、子どもを産むと部屋が足りなくなります。そ

	うなった世帯をターゲットにして、あま市を売り込むというのがより現実的ではないだろうかと思います。 出生数にこだわるのではなくて、子どもを産んで小学校に上がるまでの人たちで、１ＬＤＫや２ＤＫに住んでいるような人たちをターゲットに、プロモーションをかけていくほうが現実的ではないと思います。結婚に対して結構興味あるのですが、あえて自分の収入を削ってまで、または相手とシェアしてまで結婚に踏み切ろうという意思のある子は年々減っています。 120 ページのＳＷＯＴ分析ですが、「あま市の内部環境」で「強み」と「弱み」があるのですが、例えば強みでいくと、尾張七宝、甚目寺観音以外は、他市町とほぼ一緒です。これは全然ＳＷＯＴ分析になっていないのです。本当の意味でのあま市の「強み」、あま市の「弱み」をきちんと出すべきだと思います。私も個人的にはあま市と非常に長く関わらせていただいていますし、この「まち・ひと・しごと」の最初から関わらせていただいているし、地元の高校の皆さん達とも関わらせていただいているので非常に愛着は強いのですが、それだけにここは教科書通りのＳＷＯＴ分析になっているので、これは少し違うと感じました。これは経営学部の教員としては合格点は出せない内容でございます。 また、デジタルやＡＩが追い風のようになっていますが、先ほどのリニア新幹線も含めて、場合によっては脅威側、マイナス側になる可能性も重々にあります。ここも読み違えると、そこの成長戦略を明らかに見誤る可能性があるので、今一度考えていただきたいと思います。
委員	言葉についてですが、118 ページで、「土地区画整理事業や地区計画制度の活用」で、主語が「あま市は」となっていますが、地権者は地主さんなので、市側から地区に働きかけをすることになりますが、そこの「活用」という言葉は結構きつめで、地権者の方からすると勝手なことを言っているなというイメージになりかねないのです。ただ表現として、この「活用」は入れたいということになれば、相談はするが、市としてその方向に進めていく、働きかけをするのであれば、「活用」という言葉はあってもいいのかなと思います。そうでなくて少し弱いのであれば、「活用」という使い方はどうなのかなと気になりました。
	３　その他
会長	ありがとうございます。皆さん非常に貴重なご意見ありがとうございました。 それでは以上で本日の議題は終了とさせていただきたいと思います。 それでは、事務局から何かございますでしょうか。
事務局	その他になりますが事務局からです。次回の本委員会につきましては、10 月 30 日を予定させていただいております。改めて正式に開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いしたいと思います。以上です。
会長	ありがとうございます。２時間ありがとうございました。それでは事務局の方にお返しいたします。
	４　閉会

事務局	本日はご審議をいただき誠にありがとうございました。 以上をもちまして、令和８年度第２回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を閉会いたします。 本日はご多用の中、委員会にご出席いただき誠にありがとうございました。

以上